

広告



者のドリアン助川さんと出演者の浅田美代子さんが「人間が生きる意味」などに関して語り合ったんだ。

どら焼き店の雇われ店長と求人募集の張り紙を見てやってきたハンセン病回復者の出会いから別れまでを描いた映画「あん」を鑑賞。トークショーでは原作

映画「あん」上映／トークショー  
作家 詩の道化師、ドリアン助川さん  
女優 浅田美代子さん

人間が生きる意味とは

明治40年。戦後以降の沖縄では、本土とは違い限定的な退所や在宅治療が認められたものの、療養所内で人権侵害が繰り返されたことも事実です。平成8年に、明治の法律が強化された「らい予防法」がようやく廃止されました。皆さんには、こうした歴史をより多くの人へ伝えていってほしいと思います。



基調講演  
繰り返された人権侵害  
国立療養所沖縄愛楽園自治会 会長  
金城雅春さん

世代と立場を超えてハンセン病問題を考える  
日本には「ハンセン病」の患者や回復者、その家族が、誤った認識による偏見により、長い間差別を受けてきた歴史があるんだ。そんなハンセン病について親子で正しく理解するためのシンポジウムが、8月26日に沖縄県那覇市で開催されたよ。



司会を務めた比嘉光悠さん (名護市立久辺中学校2年)



パネルディスカッション

パネルディスカッションには、地元の中高生のほか、金城さん、野村謙さん(国立療養所沖縄愛楽園園長)、横田洋三さん(公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長)も参加。来場者に、ハンセン病問題を語り継ぎ、あらゆる差別や偏見について考えることの大切さを伝えたいよ。

身近に潜む偏見



中城村立中城中学校2年 棚原未央さん  
ハンセン病患者は、回復者だけでなく、家族もひどい差別をされたことにショックを受けました。誰もが自分らしくいられるよう、身近な人権侵害から止めていきます。

風化を防ぐために



名護市立久辺中学校2年 久志顕介さん  
ハンセン病問題は、決して風化させてはなりません。社会全体で反省して次世代に真実を伝え、受け入れる社会「つく」りをしていくべきです。

最後の世代の使命

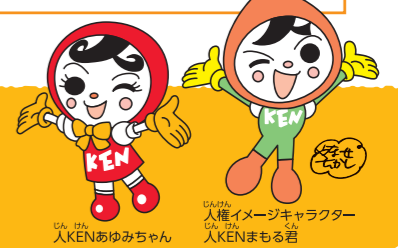


沖縄カトリック高等学校2年 渡久地礼李さん  
私たちは当事者の話を聞ける最後の世代。未だ残る差別や偏見をなくすために、ハンセン病回復者の方と交流を持ち、療養所や資料館を訪れたいです。



ハンセン病とは?

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあるんだ。でも、らい菌の感染力はとても弱く、感染しても発病することはほとんどないよ。発病しても適切な治療を受ければ治るんだ。



知っていますか? 「子どもの人権110番」 いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会 子どもの人権 110番 0120-007-110 (通話料無料)

インターネットでも人権の相談を受け付けています。

インターネット人権相談 検索



人権イメージキャラクター 人KENあゆみちゃん 人KENまもる君